

エッセイスト 近藤 節夫



カバーニャ要塞から対岸のハバナ旧市街を望む

社会主義革命を成し遂げたカリブ海の真珠・キューバは、かつてコロンブスが「世界で最も美しい島」と呼んだ孤島だった。首都ハバナの旧市街は16世紀フランス人海賊によって焼き討ちにあったことから、その後統治したスペインによって港の要塞化が進められ、現代に残る史跡となった。今では旧市街からハバナ湾を隔てた対岸にあるモロ要塞とカバーニャ要塞などが、ハバナ旧市街の街並みとともに世界文化遺産として歴史的観光名所となっている。

モロ要塞は、ハバナ湾の入り口の断崖を巧みに利用して構築され、カバーニャ要塞はカリブ海域で最も大きく、石垣の上に大砲が並び、要塞内にはチェ・ゲバラの事務所兼住居もある。ここから眺める対岸のハバナ旧市街は実に絵画的造形美である。旧市街には大小3千もの歴史的建築物が溢れており、そこには昔ながらのキューバ人の生活がしっかり根付いている。



革命広場(ネット'Getty Images'より)

今日のキューバは「キューバ革命」なしには考えられない。パチスタ独裁政権とアメリカを相手に、カストロとアルゼンチン人医師のゲバラによって成し遂げられた革命により、キューバは貧富の差のない万民平等、言論の自由など、世界でも稀なる理想的な社会主義国家へ向けて遅々としながらも歩みを進めている。

ハバナの街を歩けば、この街の佇まいの中にキューバという社会主義国家の実態を実感することができる。経済的には未だ豊かとはいえず、夜の街灯の明かりも暗いが、国民が同じような耐乏生活を明るく営んでいる姿に、貧富の差の小さいことが実感される。途上国などの夜の路地では

幾分危険な空気が感じられるものだが、ここでは夜の暗い路地などでも、街は治安が保たれ常にきれいに清掃され、朝散歩し



暗い夜のハバナ中心街

ていて道路上にゴミひとつ落ちていない清潔さには爽やかさを感じる。中世の路地や建物などの古ぼけたイメージとは異なり、想像以上に街は整然として清潔なのである。

キューバは革命後学校教育に注力し、とりわけ医学教育に力を入れ、養成した医師を海外に派遣することによって外貨を稼いでいるほどである。国民は誰でも教育費と医療費が無料であり、食料、住宅などの補助もあり、貧しいながらもひとまず安心して生活することができる。

そんな生活の中で情熱的な国民の間から生まれた特有のルンバは、ジャズの影響を受けマンボにもなった。いつも明るいキューバ人のリズムが通りまで聞こえてくる。これに酔ったのが、文豪ヘミングウェイである。ここで書き上げた代表作に「老人と海」がある。彼が通い詰めたバー「ラ・ボデギータ」は今では観光名所にもなっている。

ハバナの世界遺産は静かな要塞群と賑やかな旧市街地区の対照が興味深い。つい革命の地として考えがちだが、今も夜になると市民が酔って踊って賑やかに過ごし、欧米の都市とは一味異なる世界文化遺産都市である。



旧市街の路上にはゴミひとつ落ちていない



モロ要塞



カバーニャ要塞の大砲



カバーニャ要塞内のゲバラの事務所兼住居



今も走っている1950年代のアメリカ製乗用車



ハバナ旧市街を走っている人力車



街中でルンバを演奏しているグループ



キューバ島南東部ビランのカストロの生家(生前国に寄贈された)